大連と日本：侵略地からビジネスパートナーへ

田中 菜津子

はじめに

大連は中国の中でも優れた経済都市であり、観光都市であり、環境都市でもある。一方でここ大連は、以前日本に侵略された辛い歴史を持つ。
その歴史を乗り越え、現在大連は、中国の中でも随一の日本語人材を誇り、その経済は日増しに発展していっている。

研究のねらい

現在日本の大切なビジネスパートナーとなった大連。しかし、日本語を流暢に操り、日本人へ大変親切に接してくれる中国人であっても、その心の奥では日本という国家に対しては何らかの嫌悪感を持っていることを感じることも、少なくない。

大連をただの生産工場として見るのではなく、パートナーとして認め、今後日本と大連が今後さらによりよい関係を築けるように、その歴史背景を知り、それを大連がどのように乗り越え、発展してきたのかを知ることを目的とし、この論文を書き進めることにする。

第一章　大連概況と経済状況[1]

中国東北部にある都市、大連は、中国の「総合実力百強都市(2005)」で、上海、北京、深セン、広州、天津に続いて 6 位にランクインされるなど、中国の都市の中でも、最近の経済成長が注目される都市である。2006 年 8 月には労働者の最低給与基準が引き上げられ、日本との直行便も、増便された。

一章では、大連の都市の概要と、現在の経済状態から見ていく。

大連概況

中国の東北地区、遼寧省の南側に位置する。日本の仙台市、米国のサンフランシスコと同じ緯度である（北緯 38 度 43 分～40 度 10 分、東経 120 度 58 分～123 度 31 分）面積は約 1 万 2574ｋｍ、日本の新潟県に相当する。気候は、大陸性モンスーン気候で、四季ははっきりしている。冬は氷点下になることもある。

管轄区は、6 区（中山区、西崗区、沙河口区、甘井子区、旅順口区、金州区）とその周りの 3 県級市（瓦房店市、普蘭店市、庄河市）、1 県（長海県）である。

大連市の人口であるが、戸籍人口は 2005 年で、563．3 万人で、これは、日本の北海道の人口とほぼ同じぐらいである。また、農業人口は年々少しずつ減り、非農業人口が年々増えていっている。（図１）

【図１・戸籍人口の推移】

年次	総人口	男	女	農業人口	非農業人口
2000	551.4	279.1	272.4	276.1	275.3
2001	554.6	280.5	274.1	274.4	280.2
2002	557.9	281.9	276	270	287.9
2003	560.2	282.9	277.3	262.7	297.5
2004	561.6	283.5	278.1	249.3	312.3
2005	563.3	―	―	245.9	317.4

単位（万人）（出典：ジェトロ大連「大連市概況 2006 年 9 月」）

[1] 大連市日本経済貿易事務所　大連投資促進センター　「大連投資案内」2006 <http://www.dl-jp.cn/guide.asp> [2006/1/29]

大連の風景[2]

大連の人々は、大連を「北方の真珠」と呼んでいる。街のどこからでも山と海が近く自然景観が良い。また、北京などに比べ、空気が綺麗で過ごしやすい。

毎年５月下旬になると、大連市内に偏在する、アカシアの花が咲き乱れ、その季節に行われる「アカシア祭り」は、大連の名物の一つとなっている。このため、大連は「アカシアの街」としても知られ、それを由来として、大連の街灯の一部はアカシアの形を模したアカシア街灯になっている。

夏になると、大連は国内外から多くの観光客を集める。まず大連市民が観光スポットとして一番に挙げるのが、中国一の広さを誇る「星海広場」である。黄海に面したこの広場の海側には、大連の 100 年の歴史を表現するモニュメントなどが立ち、人々の憩いの場となっている。この他、大連森林公園、聖亜海洋世界などの人口施設も充実している。また、付家庄の天然海水浴場や、友好都市である北九州市から贈られた巨大な橋「北大橋」のかかる濱海路の海と山を望む景色、金石灘の亀裂石などは大連が誇る美しい自然景観である。

そして、大連の街の大きな特徴として忘れてはならないのが、広場が大変多いことであり、市内には、80 余りの広場がある。その中の一つ、大連人民広場は大連市のちょうど中心にあり、大連市政府の所在地でもある。人民広場の総面積は 12 万平方メートルで、この広い広場では、夏になると女性警察官が馬に乗って人民広場周辺を走る姿を見ることができる。大連の女性警察官は、身長が高くモデルのような人ばかりであり、彼女たちはみなモデル学校の出身であるそうだ。これも大連のイメージアップのためのひとつの作戦であるのだろう。

また、大連の街路は非常にきれいで、ゴミが少ない。アジアでわずか 2 都市だけがランクされた「世界環境都市 500」の１つであり、国連からも中国で唯一衛生都市、ガーデン都市の称号を与えられている。

大連の交通大連市民の生活

「大連は生活するのは便利な街だが、中国人の給料はほかの大都市に比べ低い割に、物価が高い。」大連市民は言う。

大連には、「大連集団」の経営する新馬特（ニューマート）やマイカル、外資系のスーパー、カルフール、ウォルマートなど、数多くのショッピングセンターがある。どれも大きな売り場と、きちんとした従業員教育、サービスが徹底されていることが特徴である。

また、大連駅周辺には、高級デパートがいくつもあり、海外ブランドや、高級化粧品のテナントが数多く軒を連ねている。日本の資生堂やカネボウ、コーセー、などの化粧品ブランドも、市民に人気がある。

また、中国人の生活の足として有名な「自転車」だが、大連は坂が多く、交通手段が発達しているため、街中で自転車を利用している人は、ほとんど見かけない。自転車専用道路も存在しない。

勝利広場ショッピング街[3]

大連駅の目の前に巨大な迷路のような地下ショッピング街が広がる。ここは、「勝利広場」と言い、台湾合資のもと、1998 年にオープンした、地上 4 階、中地下 1 階、地下 3 階建ての 14 万平方メートルにも及ぶ広い敷地内にはブティック、雑貨屋、飲食店など約 3000 店舗が出店している。大連駅付近から青泥窪橋エリアまでをつなぐ通路としてもよく利用され、一日平均 30 万人が訪れる。ここは、大連のファッション発進基地となっている。

---

2 何徳倫　『大連は燃えている』　エスシーシー　2005　p 12-p 16

3 『ウェネバー大連』　MEDIAMANBU　2006 年 12 月　p20

大連の交通

大連の特徴のひとつとして、交通が発達していることがあげられる。海、陸、空、すべての交通機関において、大連は日増しに便利になり、発展している。

① 港湾

大連港は市中心東側に位置し、市中心と密接に連結した東北地方最大の港である。深水不凍の良港で、すでに世界 140 余りの国、地域と海運航路を持っている。

海運客運（貨客船）は上海、天津、煙台、秦皇島など、中国沿海都市および日本、韓国などの港へ航行している

2005 年の貨物取扱量は 1.7 億トン（前年比 17.6%増）（図２）コンテナ取扱量は 268．8 万 TEU（同 21．5%増）（図３）（注・TEU とは何か）

2010 年には、貨物取扱量 2．5 億トン、コンテナ取扱量 800 万 TEU を目指している。

【図２：中国主要沿海港湾の貨物取扱量】

	港湾別	取扱量	伸び率
1	上海	3.79	19.8
2	寧波	2.26	21.8
3	広州	2.15	25.2
4	天津	2.06	27.4
5	青島	1.63	15.4
7	大連	1.45	15.2

（単位：億トン、%）（2004 年）

（出所：大連ジェトロ「大連市概況 2006 年 9 月」）

【図３：中国主要沿海湾のコンテナ取扱量】

	港湾別	取扱量	伸び率
1	上海	1,456	29.1
2	深セン	1,362	27.9
3	青島	514	21.2
4	寧波	401	44.8
5	天津	381	26.2
8	大連	221	32.4

（単位：万 TEU、%）（2004 年）

（出所：大連ジェトロ「大連市概況 2006 年 9 月」）

② 鉄道

中国東北、華北地区を貫き、ヨーロッパとアジアを結ぶ主要交通手段の一つ。

大連から北京、上海、沈陽、ハルピン、錦州、長春、丹東、営口などへ、特急または快速列車が運行している。

2006 年 7 月には、ハルピン～大連間高速旅客鉄道が着工した。複数の旅客運送専用路線として建設、2011 年に開通する予定。全長 900 キロを 4 時間で結ぶことになる。

③ 道路

大連、沈陽、長春、ハルピンを結ぶ高速道路、その周辺の国道、省道が整備済み。2005 年 9 月には、大連、庄河、丹東を結ぶ高速道路が開通した。

④ 空港

大連周水国際空港は国内線 71 路線、国際線 31 路線（不定期便を含む）を持つ、東北地区最大の空港貨物運送基地。2005 年の利用者数は延べ 541 万人（同 17．2%増）。

⑤ 市内の交通機関[4]

バス

大連市内を網の目のように走る。およそ 70 路線ほどあり、地下鉄のない大連で、主要な市民の足となっている。料金はどこまで乗っても 1 元（およそ 15 円）で、乗車時に支払う。開発区までの長距離バスや、マイクロバスなどは 2 元（およそ 30 円）である。バスの路線図と地図は、大連市内の露店などで購入できる。（約 2～3 元）

路面電車

現在は、
201 路線　大連火車站　～　沙河口站
202 路線　興工街　～　黒石礁　～　河口
203 路線　大連火車站　～　華楽広場～　東海公園
の 3 路線が走っている。

大連の路面電車は、運転手及び列車員が全員女性ということが特徴だ。
車両は、エアコン付きの新型車両が 1 路線、あとの 2 路線は 1 章で触れたように、1930 年代に作られた日本統治時代のレトロな車両が使われている。（写真）
こちらも乗車時に 1 元を払い、どこまで乗っても同じ料金である。

快速軌道電車

大連駅から遊園地やゴルフ場、リゾートなどのある金石灘までを結ぶ 2002 年に開通した高架電車。終点の金石灘までは 8 元で、約 1 時間半でアクセスできる。この電車の完成によって、開発区までのアクセスがさらに便利になった。近代的なモノレールのような電車は、音が静かで、車窓から景色を眺めながら、快適な移動をすることができる。ほかに開発区までは、大連駅前からのバスを利用する方法がある。

4 「china door」大連タウン情報<http://chinadoor.jp/dalian/index.php>[2006/1/29]

公共明珠カード

公共明珠カードとは、大連の公共交通機関で使えるICカードである。バスなど乗車時にこれを規定の場所（写真）にかざすだけで、小銭を出さなくても乗り降りできる。日本のSUICAと似たようなものだが、料金が現金で払うよりも割安になるほか、バス、路面電車、快速軌道と別の交通機関でも利用可能なことが特徴だ。

大連の経済状況

今日の大連は、経済と社会の発展速度が更に加速し、総合経済力が顕著に強まりつつある。（図４）

【図４：2005年の主な経済指標】

マクロ項目	統計項目	単位	2005年	伸び率
ＧＤＰ	ＧＤＰ総額	億元	2150.0	14.2
	うち第一次産業	億元	185.2	11.7
	うり第二次産業	億元	994.0	15.3
	うち第三次産業	億元	970.8	13.7
	一人あたりＧＤＰ	元	38144.0	9.1
工業	工業生産増加額（付加価値ベース）	億元	643.9	22.4
国内投資	全社会固定資産投資総額	億元	1110.5	53.7
消費	社会小売品販売総額	億元	732.0	13.5
	市区住民一人あたり年間平均可処分所得	元	11994.0	15.0
	農民一人あたり年間平均収入	元	5900.0	15.6
物価	消費者物価上昇率	%	1.4	—
失業	失業率	%	3.4	—
貿易	貿易総額	億ドル	255.9	23.5
	うち輸出総額	億ドル	137.8	27.0
	うち輸入総額	億ドル	118.1	19.7
	投資件数（契約ベース）	件	1058.0	9.9
対内直接投資	投資額（契約ベース）	億ドル	46.0	45.5
	投資額（実行ベース）	億ドル	10.0	114.6

（出所：出典：ジェトロ大連「大連市概況2006年9月」）

GDPの成長率は、2005年14.2%で、大連の経済が日増しに大きく成長していることが見て取れる。（図５）中国全土の9.9%と比べても、その割合は大きく、中国の中でも経済発展のスピードの速い都市の一つであることが分かる。

【図５：中国全体と大連のＧＤＰ（名目）の推移】　（単位：億元、％）

年次	中国全体	実質成長率	大連	実質成長率
1996	67,885	9.6	733.1	13.6
1997	74,463	8.8	820.6	13.1
1998	78,345	7.8	926.3	11.7
1999	82,068	7.1	1,003.10	11.1
2000	89,468	8	1,110.80	11.8
2001	97,315	7.5	1,235.60	11.8
2002	105,172	8.3	1,406.10	14.1
2003	117,390	9.5	1,632.60	15.2
2004	136,876	9.5	1,961.80	16.2
2005	182,321	9.9	2,150.00	14.2

（出所：大連ジェトロ「大連市概況 2006 年９月」）

産業地区[5]

大連には、中国北方における最大の国家経済技術開発区、保税区、輸出加工区、ハイテクゾーン、それに金石灘リゾートゾーンがあり、ペトケミ、新素材、エレクトロニクスインフォメーション、機電一体化製造、食品加工、バイオ製薬、ソフト開発等の現代的な産業群が形成されている。

大連政府が産業地区を設け、税制などの優遇政策を設け、そこに外資系企業などを誘致することによって、経済発展をすすめてきたのが、大連の特徴である。

第二章　日本に侵略された歴史と強制的な日本語教育

現在大連は、軍港である旅順を持ち、大連港からは世界中に貿易船を出す、優れた国際都市となっている。しかし、その発展の歴史は、侵略を受けた歴史を無視しては語れない。本章では、日清戦争の起こった１８９４年ごろからの帝政ロシアの支配、日露戦争後から第二次世界大戦の終結までの日本の支配の歴史を追っていく。その中で、日本が、ロシアが、どのように大連の街を作ってきたのかも紹介していく。

また、大連のある東北地方では、旧満州時代に、強制的な日本語教育が行われ、それが今日大連の日本語教育がさかんな都市になった理由であるとも言われている。そこで、当時の強制的な日本語教育どのように行われていたのかについてもこの章で述べていく。

軍港・旅順[6]

大連の歴史を紹介する前に、まずは旅順について触れていく。

旅順は大連市内から車で一時間ほどの場所にあり、後の日露戦争の激戦地として有名な場所である。現在は外国人の立ち入りは特定の場所を除き許可されておらず、多くの軍事施設がある。その地形は港の正面を遮るように小さな半島が突き出し、背後には港を山々が取り囲んでいる。このような地形から旅順は、軍港として好条件であったといわれている。

この旅順の軍港としての好条件に初めて目をつけたのが、清国の北洋大臣であった李鴻章であった。1880 年から、旅順の要塞化に着手し、旅順の港口に多数の砲台を築いた。しかし、日清戦争においてはこの砲台は用をなさず、旅順は日本軍によってわずか一日で陥落した。旅順陥落は清国の戦争遂行能力を著しく低下させ、清国敗戦の決定打になったと

---

[5] 大連投資促進センター「大連投資案内」2006〈http://www.dl-jp.cn/guide.asp〉大連市日本経済貿易事務所［2006/1/29］

[6] 西沢泰彦『図説 大連都市物語 』河出書房新社 1999　p17-75

いわれる。このとき日本軍は旅順で非戦闘軍に対する大量虐殺を行った。
その後、日本は日清講和条約によって清国から遼東半島を譲渡されたが、かの有名なロシア、フランス、ドイツによる三国干渉によって、日本は遼東半島を清国に返還することとなる。帝国ロシアは、冬季に氷結するウラジオストクに代わる港を探しており、旅順に目をつけたのだった。ここから、帝国ロシアによる大連の統治が始まった。

ダーリニーの誕生

旅順は優れた軍港ではあったが、港口が狭く、新たな市街地を建設するほどの平地もなかった。このため、帝政ロシアは、大連湾に面した小さな寒村、青泥窪に商業都市の建設を目指した。帝政ロシアは、この都市を「遠方」を意味する「ダーリニー」と名づけた。ここから大連の都市としての物語が始まる。
「ダーリニー」の街の建設は、東清鉄道に託されていた。東清鉄道は、パリをモデルとして多心放射状街路の都市づくりを行った。当時の人口統計を見ると、ロシア人がダーリニーの総人口（4 万 1260 人）のわずかに 7.6%（3113 人）にしか過ぎず、9 割以上を中国人（3 万 7760 人）が占めていた。その中国人のほとんどが男性であり、彼らの多くが建設業や港湾の荷役業に従事する労働者であり、彼らなくしてダーリニーの都市としての成立はありえなかった。

大連の誕生

1904 年に始まった日露戦争は、朝鮮半島の支配をめぐる帝国主義戦争であったが、その実際の戦場のほとんどが中国東北地方であり、ダーリニーの戦略的価値は高かった。1904 年 5 月 4 日、日本軍は南山要塞を陥落させ、ロシアの支配下にあったダーリニーを占領した。また、1905 年 1 月に旅順のロシア軍が降伏すると、さまざまな職種の民間の日本人が渡航してきた。この時やってきた日本人は 700 人を超えるといわれている。
そして、1905 年 2 月、ダーリニーは日本軍によって「大連」と改名された。大連の誕生である。
1905 年 9 月、ポーツマス条約が調印された。この条約に基づいて日本が得た大連に関する権利は、「遼東半島南端のロシア租借地を日本の租借地とすること」「長春～旅順、大連間の東清鉄道とそれに付随する鉄道付属地や鉱山開発権を日本に譲渡すること」であった。
日本政府は、中国東北地方支配を確固たるものにするために、1906 年 9 月、旅順に関東都督府を設立し、11 月には東京に南満州鉄道株式会社を設立した。ここから日本は、帝政ロシア画基礎を築いたダーリニーの上に都市基盤施設を整備し、建物を建てて、新しい都市大連を築いていこうとする。

都市基盤の整備

日本軍がどのように大連の都市基盤を築いていったのか、少し詳しく見ていく。
大連の都市基盤施設の整備であるが、道路、橋、上下水道の建設は関東都督府民政部土木課が担当し、電気、ガスのエネルギー供給と市内交通である路面電車の建設、さらに大連港の建設も満鉄に託された。
市内には、アスファルトの道路が敷かれ、水洗便所が整備され、大連市内ほとんどの住宅のトイレが水洗となった。また、1907 年 10 月から、市内に電気が供給され、電力供給にあわせて、路面電車が開通した。
建築に関しては、「大連市家屋建築取締規則」にのっとって、みすぼらしい建物は撤去され、欧風のレンガ作りの建物が次々と建てられた。それは、日本人にとって、新しい都市である大連で、欧米人と同じ生活水準を確立していることを示すためだった。1909 年に起工された大連ヤマトホテル（現大連賓館）も、ルネサンス様式の完成度の高い建築物で、大連の顔のひとつとして賓客接待の目的を持って建てられたものである。現在の中山広場は、旧横浜正金銀行や、旧大連市役所など、当時の建物が今も保存されており、真新しい

ビル群と共存している。

大連港の整備

戦前、日本から大連に赴く場合、最もよく使われたのが海路である。20 世紀前半の大連港は、大連と満州の玄関であった。日本政府は清国政府と交渉して、大連港の自由港化を認めさせ、1907 年 5 月、大連は自由港として国際的に認知されることとなる。この場合の自由港とは、大連に輸入される貨物のうち、租借地を出て、清国に輸入される貨物以外には関税を課さないという制度であった。

その大連港を建設したのも満鉄であった。投じた建設費は当初 10 年間だけでも 1592 万円あまりであり、その結果、大連の貿易額も飛躍的に伸びつづけた。（図６、図７）

【図６：大連港輸出量の変化】

年	貨物量（トン）	価額（円）
1907	172,767	5,105,209
1912	1,017,427	42,173,478
1917	2,005,377	143,341,268
1922	3,794,220	264,238,473
1927	5,859,012	329,596,990
1932	6,206,288	349,685,286

（出典：「関東局施政 30 年史」を「大連都市物語」p73 より転載）

【図７：大連港の輸入量の変化】

年	貨物量（トン）	価額（円）
1907	205,814	17,160,119
1912	420,794	50,914,847
1917	757,835	162,287,413
1922	651,599	159,958,578
1927	975,229	107,140,933
1932	1,268,420	349,685,286

（出展：「関東局施政 30 年史」を「大連都市物語」p73 より転載）

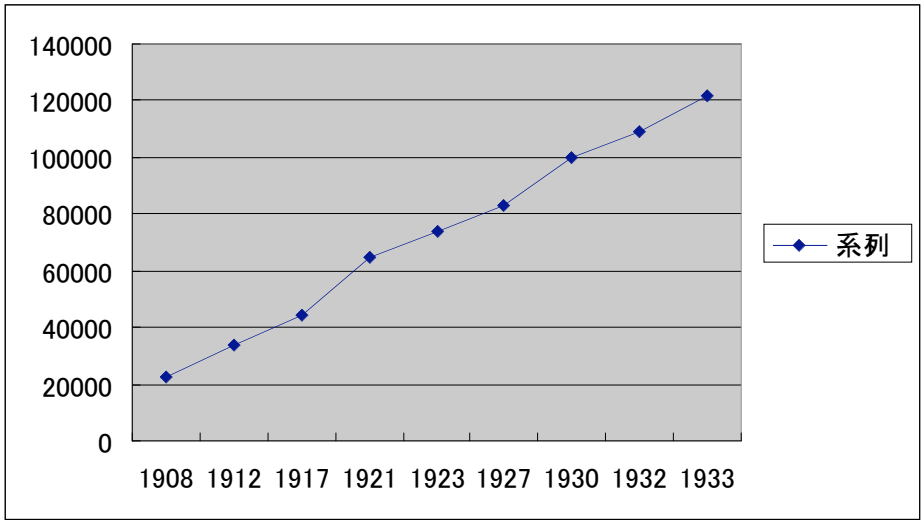
大連港は、建設事業の発展とともに貿易額も増加し、1920 年代末には広東港を抜き、天津港に肩を並べるまでになった。それは、大連が、欧州列強の極東支配の拠点となった都市に追いついたことを意味しており、この大連港の発展と、商業都市としての大連の発展は、不可分なものであった。

大連の日本人[7]

日露戦争中に占領地ダーリニーへの民間人の渡航が解禁されると、さまざまな職業の日本人が、一攫千金を求めてダーリニー、大連へやってきた。大連の日本人は 1915 年には約 4 万人になり、その後も増え続けた。20 年には 6 万 200 人に、30 年には約 10 万人に達した。（図８）

[7] 塚瀬進『満洲の日本人 』吉川弘文館 2004　p 45-57,　p 171-177

【図８：大連における日本人の人口の推移】



（出典：「関東州並満州在留本邦人及外国人人口統計表」各年度版より作成を「満州の日本人」より転載）

大連に行けば成功できる、このような噂を聞きつけ、当時多くの日本人が大連に渡ったが、結局失敗するものも少なくなかった。彼らの暮らしぶりは以下のようであった。

在満日本人の多くは、旧満州に骨を埋める覚悟がなく、やがては日本に戻ることを年頭においていた。そのため、旧満州をより理解しようとか、大連や付属地をより良くしようといった意識は低かった。やがては日本に帰るのだから、面倒な近所づきあいは御免だと考えたのか、在満日本人同士の結びつきも弱かった。また、日本人は現地においても日本と同じ服を着、同じ食べ物を好み、日本の生活様式を貫こうとした。日本人は固まって生活していたため中国語を話す必要はあまりなく、話そうとする日本人も少なかった。

旧満州国に住んだ日本人は、周囲に暮らす中国人などの異民族に対しては無関心か蔑視する態度で接しており、満州国政府も民族間の相違を埋める努力はせず、民族協和が達成できる状況は存在しなかった。[8]

満州国の日本語教育[9]

1932 年に「建国宣言」をした「満州国」の存在は 14 年間に満たないものであったが、その特殊な政治、軍事、社会形態のもとで日本語普及政策が行われた。その日本語普及政策がどのようであったのか見ていく。

1937 年までの教育法規に基づくと、日本語は、正式に「国語」という呼称を与えられておらず、学校教育と社会教育などで、外国語として教授されており、授業の時間数に占める比重もさほど大きくなかった。

しかし、1938 年（康徳 5 年）１月１日から新学制がスタートし、この新学制により、日本語がはじめて明確に満州国の「国語」と規定された。その「学制要綱」の「三、学制立案上ノ要点」では、「日本語ハ日満一徳一心ノ精神ニ基キ国語ノ一ツとして重視ス」と規定されている。日本語は、満州国のいずれの地域においても第一国語の資格を獲得した。満州国は、表向きは「独立国」であったが、その国民のだれ一人の母語でもない日本語を持ってきて、堂々とその「国語」と宣言してはばからなかったのである。このような例は、世界中ほかにみられない。

8 塚瀬進『満州国「民族協和の実像」』吉川弘文館 1998
9 石剛『植民地支配と日本語』三元社　1993　p 51-59

また、「満鉄」の日本語教育に関する施策にも注目したい。満鉄の日本語教育は、南満州鉄道株式会社により、1909 年（明治 42 年）に設立された公学堂からはじまり、30 数年日本語学堂などの教育施設を経営し、社外の経営による初等教育機関に対して、教員の派遣および経費の補助により、日本語の普及をはかった。このほか、鉄路学院を設けたほか、8 万人の「満人」従業員が日本語で執務できるように、地方の鉄道従業員に対して 3 ヶ月ないし 6 ヶ月の日本語を主とした鉄路教育を行っていた。

こうした普及政策のなかで「語学検定試験」制度が設けられた。1937 年に語学学習の奨励と普及を目的に掲げた語学検定規定が発表された。1944 年の資料によると、その都市の受験者はすでに 5、6 万人に達したという。

日本語普及の裏側

このように満州国で言語政策が行われ、社会的に、とくに行政、官庁、公的な言語生活のなかで日本語の比重を増大させ、公用語に育てる努力はある程度の効果を収めた。しかし、国民の日常生活への浸透は、つねに根強い抵抗に直面していた。

学校教育では、小学校の段階から日本語が母語と同じぐらいの教育時間を占め、中学になるとさらに母国の倍以上に増やされた。にもかかわらず、生徒は勉強の意欲がないため、ほとんど毎日のように処罰され、学習の効果は大変薄いものであったといわれている。

「中国人の」大連へ[10]

1904 年に日本軍は帝政ロシア支配下のダーリニーに無血入城したが、それから 41 年後、1945 年 8 月 22 日から 24 日にかけて、今度はソ連軍が大連に無血入城した。

1945 年 10 月 27 日、ソ連軍の呼びかけに応じて、戦争終結後にできた中国人の種々の組織が大連ヤマトホテルに集まって、大連市長と副市長を選出し、大連市政府の設立を決めた。そして、行政機構の脱日本化を図った。「遣送日橋回国」という施政綱領に基づいて約 20 万人の大連在住日本人が帰国し、空き家となった日本人住宅を中国人に支給していった。このようにして、大連は着実に中国人の都市へと変化していく。

しかし、それから現在に至る約半世紀には、帝国主義による支配と同様な状況下に庶民をおくほどの事件もあり、順調な都市発展とはいい難かった。その後も国共内戦や、ソ連軍による大連港と旧満鉄線の管理運営の問題に苦しみ、中ソ友好同盟条約の締結における中国側の粘り強い姿勢のもとで、ソ連は、やっとこれらの返還を決めた。次の困難は、10 年動乱とも称される文化大革命である。破壊が日常的に行われ、大連における鉄道貨物取扱量も 3 分の 1 になった。

そして、1980 年代末になってはじめて、高層建築の建設がはじまり、市街地の面目が一新した。しかし、やみくもに高層化をすすめるわけではなく、日本の支配化に建てられた建物を端に支配の象徴、遺物としてみるのではなく、建物の存在意義を認め、それを市街地での土地再開発に利用し、新たな遺産とみなし、それを利用しながら街づくりをしていった。それは、中国人のおおらかさであり、知恵であり、大連が魅力的な街であるひとつの原因になっている。

日本の侵略は結果的に良かったことなのだとか、そんなことを言う人もいるが、決しておごった考えを持ってはいけない。侵略は悲しい歴史であり、その下で苦水を飲んできた中国人労働者が多くいたことを忘れてはいけない。日本軍が支配した当時、街づくりをした労働者もほとんどが中国人である。大連は辛い歴史を乗り越え、中国人が自らの手で発展させた街なのだ。

---

[10] 西沢泰彦『図説 大連都市物語 』河出書房新社 1999　p 102-106

第３章「日本との関係と大連の日本語人材」

大連が日本の侵略を乗り越え、今発展のさなかにあることは、第１章で既に述べた。この章では、現在の大連における日本との関係を主に経済交流から見ていくことにする。

また、現在日本と大連の経済交流が活発な理由として、日本語人材が豊富である、ということが挙げられるが、それは、第２章で述べたように、中国東北地方は、日本の侵略時代、強制的に日本語教育が行われた歴史があり、その所以で、現在も日本語教育が活発に行われていることにある。その日本語教育の基地となっている、大連外国語大学について詳しくこの章で触れていく。

日本との関係

ビジネスパートナーとしての日本

大連と日本は地理的にも近く、東京から飛行機を使って３時間半ほどで到着する。現在の日本との直行便は、東京 26、大阪 12、広島 7、福岡 7、名古屋 4、富山 3、仙台 2 と、日本の各都市から大連に行くことができる。

現在の大連にとって、日本が最大の貿易相手国であることは間違いない。2005 年の大連の貿易主要相手国・地域別順位を見てみると、輸出が 46.21 ドル、輸入が 32.38 ドルと、2 位の韓国に大きく差をつけている。（図９）

【図９ ：2005 年大連の貿易相手主要国・地域別順位】

（単位：億ドル）

国・地域別	輸出	輸入
日本	46.21	32.38
韓国	10.97	13.08
米国	16.51	5.8
香港	6.88	6.42

（出典：ジェトロ大連「大連市概況 2006 年 9 月」）

これまで大連に 進出した外資系企業は累計で 11022 件(2005 年 11 月現在)に上り、その内、日系企業は 3142 件余り(同上)あり、大連の外資系企業で一番数が多いのはやはり日本である。キャノン、東芝、松下電器、三 洋電機、日立、ＹＫＫ、トステム、伊藤忠商事、三菱商事等の会社は皆大連に投資しており、みずほコーポレート銀行、東京三菱ＵＦＪ銀行等、大連で支店、若しくは 駐在員事務所を開いているのは計７行である。[11]

日本人の生活

日本企業が、大連に進出していくにしたがって、大連在留の日本人の数も増えていっている。

【図１０：大連在留邦人数】　（単位：人）

	2003 年	2004 年	2005 年
邦人数	2,312	2,823	3,145

注：各年の 10 月 1 日時点で大連に 3 ヶ月以上滞在する人のことを指す

（出所：ジェトロ大連「大連概況 2006 年 9 月」）

日本料理屋や、日本人向けの店も多く、大連外国語大学付近や、開発区などでは、日本語の看板を見ることも多い。日本人向けのフリーペーパーとしては、「ウェネバー大連」と

[11] 大連投資促進センター「大連投資案内」2006 大連市日本経済貿易事務所

「コンシェルジュ大連」などがあり、雑誌上では日本料理店や、日本人向けの美容室、求人情報、イベント情報などを詳しく知ることができるほか、中国で暮らしていくのに役立つ生活情報なども掲載されている。

日本との交流

日本と大連間での交流も活発である。まず、姉妹都市としては、大連市と福岡県北九州市、京都府舞鶴市、青森県、大連金州区と石川県七尾市、大連瓦房店市と熊本県玉名市、山形県天童市がある。[12]

また、日本、大連、両方の地でイベントなどもさかんに行われている。例えば、2006 年の 11 月に、日本各地で「大連ウイ―ク」が開催された。これは、大連市政府が主催し、中国駐日大使館、ジェトロなどが後援するもので、夏徳仁市長を団長とし、政府、経済、文化など各界から 100 人以上が訪日した。期間中は、大釜湾の「保税地区」や、大連市が重点的に開発する工業団地などに関する説明会が実施され、その他討論会や、少年野球による友好試合も行われた。[13]このようにし、大連市は、日本との経済協力関係を強化し、新たな分野での協力関係を築くことを目的とした努力を惜しむことがない。

現在の日本語教育と日本語人材

現代の大連での日本語教育体制が、どのようなものであるか見ていく。

中国の教育制度は、小学校の 3 年生から外国語の教育を受けることを義務付けている。95%以上の学校は、英語の義務教育を行っているが、あとの 4～5%ぐらいの学校が、日本語の義務教育を行っており、それは殆ど東北地域に集中している。大連にもそのような小中学校が数校あり、実際にそのような教育を受けた学生に話を聞いてみると、彼らは英語の勉強はせず、第二外国語として、ずっと日本語だけを勉強してきたと言う。

1980 年代の中国から日本への国費留学生は、主に東北地域の長春と大連の２ヶ所からであり、1 年間の日本語強化訓練を受けてから、日本へ派遣された。その２ヵ所とは長春師範大学と大連外国語学院で、国家の公認を受けた日本語教育の最高水準を誇る大学であった。

大連外国語学院[14]

大連外国語大学は大連駅から車で 10 分ほどの交通至便な場所にある。繁華街や労働公園にも近く、抜群のロケーションである。

その前身は、大連日本語専科学校といい、周恩来首相の指導のもと、国家が外交事務幹部と日本語翻訳人材の育成を目的として、1964 年に創立した。全国に 8 つある外国語専門大学のひとつで、東北地方では唯一の外国語大学である。北京には英語人材の育成のため、北京語言大学を、大連には日本語のために大連外国語大学を設立した、と言われている。

全体の在校生は２万人近く、そのうち大学院生はおおよそ 600 人、本科生 9000 人、外国人留学生 800 人、社会人学生 1400 人、各種育成訓練は 8000 人の構成になっている。

専門学科としては、日本語、英語、ロシア語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、朝鮮語、中国語、対外中国語（留学生向けの）、芸術設計、旅行管理、国際経済貿易、コンピューター科学技術、情報管理と情報系、コンピューターソフトウエア、アラビア語、報道学、音楽管理、など 18 の学科があり、特に日本語文学と英語文学を重点学科としている。

12 大連投資促進センター「大連投資案内」2006 大連市日本経済貿易事務所

13 『ウェネバー大連』MEDIAMANBU　2006 年 12 月　 p 40

14 天健ネット日本語版 <http://jp.runsky.com/js.asp#top> [2006/1/29]

【大連外国語大学正門】

大連外国語大学の日本語教育[15]

地元の人たちから「大外（ダーワイ）」と呼ばれ親しまれているこの大学の日本語教育には定評がある。日本語を学ぶ学生や社会人が目標とする日本語弁論大会「キャノン杯」では、2006 年、４部門のうち 3 部門を大外の学生が占めた。その理由は、先に述べたように伝統とともに教育内容が充実していることがあげられる。日本語を学んでいる学生は 4000 人にも達し、層の厚さでは随一だ。教師人も日本､中国人を合わせて 100 人に上る。

毎年 150～200 人の学生を日本の各大学へ送り、日本語教師も教育交流として 10 人ほど派遣している。現在交流のある日本の大学は 33 校ある。

現在、旅順に新キャンパスを建築中で、この中に「日本文化村」を作る予定だ。日本の高齢者を受け入れ、ここで生活し、中国の学生と交流しながら中国語を勉強することができるようになるという。

日本語学科の学生

この大学の日本語学科の学生に話を聞いた。普段の生活は、実家が大連市内であっても寮に入り、大学の敷地内で同じ学科の者たちと 7 人ほどの狭い部屋で暮らしている。授業は朝から晩まで、日本語のリスニング、精読、口語、また文化や日本の地理なども学ぶ。授業が終わったあとも夜までずっと自習。日本語を使って演劇大会をするなど、その教育は実に熱心である。

彼女はまだ 2 年生で、1 年半しか日本語を学んでいないにも関わらず、流暢に日常会話をこなし、敬語をつかったきれいな日本語を話す。来年の日本語検定テストで１級を目指すという。３年生で日本語検定一級を取るというのが平均的な流れのようだ。彼女は、本当は英語教師になりたかったが、中国では英語は出来て当たり前、就職の際に有利に働くなどということは少ない。そのために日本語を選択したそうだ。彼女は４年間中国で日本語を学んだ後、日本に留学に来ることを目標に、現在勉強に励んでいる。

日本語検定

大連の日本語能力検定試験の受験者数を見ても、大連が中国の中でも、とりわけ日本語学習者が多いことが見て取れる。1 級は、上海の 8,175 人には及ばないものの、北京の 4,916 人よりも 1000 人多い 6,006 人もの人が受験をしている。注目したいのが、4 級の受験者がわずか 264 人であることである。これを見ても、大連の日本語人材のレベルが非常に高いことが分かる。ちなみにこの調査で、インドは国全体でも日本語検定を受けた人数は 41,52 人であり、その他東南アジアの国インドネシア、シンガポール、タイ、フィリピン、マレーシアと、これら各国の日本語検定受験人数よりも、大連の受験人数のほうが圧倒的に多かった。

15 『ウェネバー大連』MEDIAMANBU　2006 年７月　ｐ6-7

【図１１：日本語能力検定試験の受験者数(2005)】

	１級	２級	３級	４級
北京	4,916	4,875	2,296	824
上海	8,175	9,361	5,889	1,605
大連	6,006	5,113	808	264
広州	2,379	2,717	1,246	664

（出所：日本貿易振興機構海外調査部「ASEAN・中国・インドの労働力環境比較調査」2006年9月より作成）

また、日本貿易振興機構（ジェトロ）が主催する実践的な日本語のビジネスコミュニケーションを測ることを目的とするテストBJTビジネス日本語能力テストが2005年11月に大連の大連外国語学院で初めて実施され、05年の第一回は917人が受験した。2006年の11月には1230人が受験し、過去最高の受験者となった。[16]このように大連は、中国日本語人材の重要な発進基地として重要な役割を果たしている。

大連の日本語人材不足[17]

ここまで、大連外国語学院を中心に、大連が日本語人材の発進基地となっていることを述べてきた。また、定住人口６００万人のうち６万人が日本語を話すと言われている。

ところが、最近それでも、日本語人材の供給が需要に追いつかないのだという。あと一万人は必要だ、という声もある。外資系コンピューター企業の日本向けコールセンター業務や、ソフト開発企業の日本からのアウトソーシング業務が急増したことが原因だ。

市政府は「毎年数千人の日本語人材の供給を目指す」とし、ここ数年で市内２２大学のすべてに日本語学習のコースを設け、定員も増やした。大連の企業の求める日本語レベルは非常に高い上、給与水準が広州や、北京など、他の都市に比べて低い。（図１２）広州と大連の給与の開きは1000元以上もある。そのため、大連で就職を望む学生も、仕方なく別の土地へ行くこともあるという。大連で育てた日本語人材が、他の都市へ流出してしまっている。

図１２：【中国主要都市の労働者平均月間給与(2005年)】（単位：元）

	都市別	労働者平均月間給与
1	広州	2,861
2	北京	2,734
3	深セン	2,706
4	上海	2,662
5	杭州	2,548
6	南京	2,445
7	寧波	2,332
8	蘇州	2,085
9	天津	1,883
10	アモイ	1,881
11	大連	1,822

（出所：ジェトロ大連「大連概況2006」）

16 『ウェネバー大連』MEDIAMANBU　2006年１２月　p41-42

17 asahi.com 中国特集 11/15
<http://www.asahi.com/world/china/news/TKY200611150258.html> [2006/1/29]

複合人材の育成を

目下大連で必要とされているのが、IT と日本語両方に通じた複合人材である。ソフトウエアパークについては次の章で触れるが、現在、大連における日本企業で、ＩＴ関連の企業は年々増えてきており、そこでは、ブリッジＳＥと呼ばれる日本語の仕様書を中国語に翻訳する中国人ＳＥが必要とされている。

第四章　大連ソフトウエアパーク[18]

大連が日本語人材の発進拠点となっており、大連が日本企業にとって、優秀な人材を探しやすく、近年大連と日本の関係がますます深まっていっているということは既に述べた。

1998 年に、大連市政府が、ソフトウエアと情報サービス産業を大連市の主要発展産業として定めて以来、大連のソフトウエアと情報サービス産業は、急速な成長を維持している。

この章では、対日オフショア開発や、BPO の拠点として発展している、大連ソフトウエアパークについて紹介していく。

大連のソフトウエア産業の概況

大連ソフトウエアパークについて述べる前に、大連のソフトウエア産業の概況について触れておく。

現在、全世界規模での、ソフトウエア産業と情報サービス業は、急速に発展しており、世界各国で、いくつかのグループを形成している。その中で、中国は、同じ漢字を使用する国の特徴で、日本に対する新しいオフショアセンターになっている。

近年来、中国は、電子工業を国家経済の一大産業として、発展させた。2005 年のソフトウエア・情報サービス業の売上高は、2900 億元に達し、ソフトウエア産業は飛躍的に伸びているが、大連はそれを上回る伸び率で成長している。（図１３、１４）2012 年までには、大連市のソフトウエアと情報サービス産業の GDP は、800～1000 億元となり、大連市の GDP の 6 分の 1 を占め、その内ソフトウエア輸出額が 35 億米ドルになると予想されている。[19]

図１３：【中国全体と大連のソフトウエア・情報サービス業の総売上高（単位：億元%）】

年次	中国全体	伸び率	大連	伸び率
2000 年	593.0	40.8	9.8	78.2
2001 年	750.0	26.5	15.3	56.1
2002 年	1100.0	46.7	23.4	52.9
2003 年	1633.0	48.4	46.7	99.6
2004 年	2424.0	48.4	71.9	54.0
2005 年	2900.0	19.6	100.0	39.1

（出所：ジェトロ大連市概況 2006）

図１４：【中国全体と大連のソフトウエア輸出額（単位：億ドル%）】

年次	中国全体	伸び率	大連	伸び率
2000 年	4.0	60.0	0.4	166.7
200１年	7.5	87.5	0.3	▲ 25.0
2002 年	15.0	100.0	0.5	66.7
2003 年	20.0	33.3	1.1	126.0
2004 年	28.0	40.0	2.1	87.6
2005 年	40.0	42.8	3.0	41.8

（出所：ジェトロ大連市概況 2006）

---

18 何徳倫『大連は燃えている』エスシーシー　2005

19 天報 Yesky「軟件外包之感:是給別人做嫁衣」2006-10-09
<http://soft.yesky.com/info/413/2606913.shtml>[2006/1/29]

大連ソフトウエアパーク

大連ソフトウエアパークは、大連市西南部に位置する。海浜公園の星海公園が近くにあり、海と山に囲まれた、すごしやすい、風光明媚な場所である。大連は山に囲まれているので、ソフトウエアパークのどの位置からも山が見渡せる。

大連ソフトウエアパークの第一期は、1998 年に起工された。総面積は約 3 平方キロメートル、パーク内の企業は 160 社を超え、その 32%は外資系、半分以上の企業が日本向けのサービスを行っている。

中国に 11 ヶ所ある「国家級ソフトウエア産業基地」、中国に 5 ヶ所ある「国家ソフトウエア輸出基地」の１つでもある。

「民が営み、官が助ける」

大連ソフトウエアパークの特徴として、大連市政府の「民が営み、官が助ける」という政策がある。その政策とは、「政府の資金援助はないが、政策によって、土地と優遇条件などが提供できる」ということである。

大連ソフトウエアパークは、政府から提供された土地にソフトウエアパークを建設し、それを基にして、数多くの企業の、パーク入居の誘致に成功した。政府は、市の財政資金がかからない方法で、大連市のソフトウエア産業を発展させるという計画が実現しつつあ

り、大連ソフトウエアパーク股分有限公司にしてみれば、パークの不動産賃貸とパーク周辺住宅地域の開発と販売で、大きな収益を上げたことになる。さらに、ソフトウエアパーク内での、情報大学の経営と自らのアウトソーシング事業で収益を上げるような構図になっている。

大連市政府の熱心さ

大連市政府のソフトウエア産業に対する優遇政策

（1） 発展助成金とソフトウエア産業発展基金の設立

大連市政府は、ソフトウエア産業発展のため、特定プロジェクト資金制度を設置した。ソフトウエア産業の資金援助は、資金補助、利息の補助、奨励などの方式により、ソフトウエア産業の発展に要する公共インフラ環境の建設、ソフトウエア企業の支援補助、ソフトウエアの人材育成と導入、ソフトウエア産業の優遇政策が規定する特殊奨励や補助金などをサポートするものである。2004 年から、大連市政府は毎年 2 千万元以上のソフトウエア産業発展資金を出して、ソフトウエア企業のプロジェクト研究と開発、人材の育成、国際市場の開拓、基礎施設の建設などに用いた。

（2） ソフトウエア企業の技術レベルアップの支援

政府の支援と指導により、大連の多くのソフトウエア企業が CMM レベル評価[20]の取得を開始し、ソフトウエアアウトソーシング企業の技術と管理水準を大幅に向上させ、ソフトウエア企業として良好な環境を構築した。

（3） 大連市ソフトウエア産業人材発展専門資金を設立

ソフトウエアの高級人材を集めるためと奨励のため、大連市政府は毎年 1 千万元以上の資金を出して「大連市ソフトウエア産業高級人材発展専用資金」を設立した。同時に、ソフトウエアパークとハイテクパークに登記されたソフトウエア企業は、社会保険を納付するときに、政府の援助が得られる、つまりソフトウエア企業で年棒が 6 万元以上の技術者は、納付する年度個人所得税を一部減免される優遇政策を打ち出した。

また、大連市政府は、日本企業の誘致に非常に熱心で、市長自ら日本に出向き、企業の誘致活動などを行っている。このように頻繁に日本を訪問し、人脈を動員して、企業の誘致活動を行う中国の地方都市は、大連だけであった。

対日オフショア開発の発展

2001 年初から、松下通信、ソニー、オムロン、アルパインなどの会社が、開設間もない大連ソフトウエアパークに入り、対日オフショア開発の幕を開いた。それに続いて、東芝、三菱、古野電気、NEC、日立造船、リコーなどが、相次いで進出するようになった。

大連の一部の会社では、日本の会社資本を取り入れて合弁会社をつくり、日本からオフショア開発業務を行うようになった。例えば、大連最大のオフショア開発会社、華信計算機技術有限公司には、日本電気、NTT データなど、日本大手会社の資本が入っているので、これらの企業グループからのオフショア開発の量も大きくなってきている。大連海輝有限公司にも、日本の GE キャピタルとＪＩＣＣの資本が入って、日本からの仕事が流れるようになった。

2003 年から、大連へ進出するＩＴ企業の数が急激に増え、世界的に有名ないわゆるグローバル企業も、その波に乗って、大連にやって来た。その中には、アメリカのＧＥキャピタル社をはじめ、アクセンチュア、ＩＢＭ、BearingPoint 社、ドイツのＳＡＰ社など、著名な会社も、含まれる。

---

[20] CMM (Capability Maturity Model for Software)：ソフト開発能力成熟度モデル。アメリカのソフトウェア関連企業の開発力を評価する指標。

大連ソフトウエアパークの環境

ソフトウエアパーク内は非常に清潔で、緑が多い。コンクリートの真新しいビルの並ぶ様子は、まるで日本にいるのかと錯覚させられる。ビルに入れば、コーヒーの良い香りがただよってくる。スターバックスコーヒーのテナントが入り、そこでビジネスマンが打ち合わせをしている。また、フィットネスクラブまでオフィスビルの中にあり、働く人が快適に過ごせるように工夫されている。

また、ソフトウエアパークの道路には生垣がある。中国には生垣は存在しないが、これはソフトウエアパーク設計の際、日本の知恵を取り入れたのだという。中国の交通事情は決して良いとはいえない。歩行者が道の真ん中で取り残されることも多い。これを、生垣を取り入れることによって防止するねらいだ。安全性は向上し、景観もよくなる、まさに一石二鳥である。

東北大学東柔情報学院

ソフトウエアパークの敷地内に、広大なキャンパスが広がる。ここは、遼寧省は沈阳のソフトウエア関連の大企業（上海の株式市場にソフトウエア関連の会社として初めて上場）「東柔集団」が私立大学として設立した、東北大学東柔情報学院である。中国で私立の専門ソフトウエア学院はここがはじめて。キャンパスらしい緑の芝生と、近代的なデザインの建物が美しい。裏手にある多くの建物たちは、学生と教職員の寮施設になっている。

この大学には、3 年制の短期コース、4 年制の大学コース、修士課程などが含まれている。

「発展を続ける IT 産業の人材ニーズを満足させるため、大連ソフトウエアパークは、積極的に IT と外国語の教育プログラムを取り込んでいます」（大連軟件園パンフレットより）

この大学の特徴は、外国語教育、特に日本語の教育を重視し、対日オフショア開発を目標にして、ソフトウエアの技術者を育成していることである。

この学校のほかにも、大連交通大学ソフトウエア学院、大連外国語大学も外国語とソフトウエアの教育プログラムをスタートし、大連履行大学ソフトウエア学院、大連大学ソフトウエア学院、また数多くの専門学校と教育センターなどを合わせると、大連市の専門 IT 人材の排出数は、これから 5 年後には毎年約 10,000 人の規模になると予想されている。

旅順南路ソフトウエアパーク

「中国の北方の、緑のシリコンバレーを目指す」

大連ソフトウエアパークが順調に発展し、大連市政府は、2003 年に、ソフトウエアパークの第二期、旅順南路ソフトウエア産業態のプロジェクトを正式にスタートさせた。これは一期ソフトウエアパークの約 4 倍、12 平方キロメートルの敷地を誇る。(写真)

この開発は、大連ソフトウエアパーク株式会社とシンガポールのアセンダス社が行っている。

2008 年に大連ソフトウエアパーク第 2 期の工事が完成すると、大連ソフトウエアパークの年間売上は 100 億元、輸出が 6 億米ドル、入居企業が 300 社以上、グローバル 500 トップ企業 50 社、パーク内で働く人が 3 万 3 千人、ソフトウエア人材の育成が年間 1 万人に達する見込みである。国際化発展戦略によって、大連ソフトウエアパークは、大連市がインドの「バンガロール」のような役割を果たすように努力している。

今後の課題

大連が、中国最大の対日オフショア開発産業都市を目指し、今まさに発展の勢いが凄まじいことは上で述べた。

では、今後の課題としては、どのようなものがあるのだろうか。中国のサイト天報 Yesky に興味深い文章があるので引用する。

『日本のソフトウエアアウトソーシング市場には明らかな特徴がある。日本企業は上流工程の設計を既に行ったあとで、下流工程を安価なコストを求めて国外に請負に出す。下流工程のプログラミングだけを中国に与え、もっとも重要な部分は日本で設計を済ませてしまう。これでは、請負会社のプロジェクト管理能力と技術力の向上は期待できない。中国に建設された多くのソフトウエアパーク、当初の建設目的は、ソフトウエアパークをハイテクノロジーのインキュベーターにすることだった。しかし、国内でも有数のソフトウエアパークである大連ソフトウエアパークを見ても、その目的はまだ達成されていない。ソフトウエアパークで働く技術者は、はその中核となる技術に触れることなく、肉体労働者になりさがっているのではないか。

目下、大連ソフトウエアパークのビジネスは比較的伸び盛りだ。業務依頼も日増しに多くなっている。そのソフトウエアパーク内の企業の抱えている問題は、「人材不足」。原因はその安価な労働力にある。ある責任者は言う。「目下、大連ソフトウエアパークの人件費は日本の 7 分の 1 しかありません。ほとんど 100%の日本企業が中国でアウトソーシングがしたいと思っています。」

インドは、安価な労働力だけでなく、技術力、人材も兼ね備えている。それにひきかえ、中国に請負を出すメリットは、安価な労働力だけ。中国とインドの差は明らかだ。そのため、請負の内容も違っている。』[21]

これから大連のソフトウエアパークが産業規模を拡大するには、現在のコーディングのような下流工程から、システム設計の上流工程に移っていくことが、必要だ。そのような能力を持った人材を多く育てる、また日本企業が中国人に、上流工程から任せていくことが、今後の鍵になるだろう。

そして、日本からの受託開発だけでなく、自社開発能力を高めることも、今後克服していかなければならない課題である。

最終章　より関係を強めていくために～大連で半年間暮らして～

対日感情について

大連は、親日的な都市だという認識がある。確かに、日本語を学ぶ人口も多く、日本人向けの店も比較的多く、日本人にとって暮らしやすい街であるように思う。また実際に、対日感情を目の当たりにすることは少ない。大連の街の人たちは、みな日本人に親切で、

---

[21] 天報 Yesky「軟件外包之感：是給別人做嫁衣」2006-10-09
<http://soft.yesky.com/info/413/2606913.shtml> [2006/1/29]

友好的である。
しかし、他の国の留学生から「中国人はあまり日本人が好きではないよね」と聞くことが時々あった。彼らは、大連の中国人と交流する中で、中国人が対日感情について語ったのを聞いたのだろう。
また、この論文を書くにあたって、大連の大学生の対日感情について調べてみたいと中国人学生（日本語学科ではない）に話したところ、「中国人に対日感情について聞くのはあまり賛成できない。なぜなら、中国人はやはり日本という国は好きではないから。日本の文化や、メディアについてのアンケートだったら、協力できると思う」という答えが返ってきた。日本人に面と向かって敵意をあらわにしたり、日本人だからといって特別辛くあたったりするような人は少ないが、やはり、表面上には現れなくても、確実に対日感情は存在するのだということ痛感させられた出来事だった。王敏著「ほんとうは日本に憧れる中国人」で「若い世代の日本観は「親近感」と「憎悪」の二重性が特色で、プラスとマイナスの両方が特色である」述べられているように、「二重の日本観」は大連にも存在していた。日本のアニメや文化､ファッションは好きだが、日本という国はどうしても好きにはなれない―。
また、日本語学科の学生が日本語を学ぶ理由も実に割り切っているように感じる。多くの学生が日本語学科を選択した理由を「大連では、日本語を学んでいると仕事が探しやすいから」と答える。
彼らの多くは、日本に行った事が一度もないまま日本語検定一級にパスし、大連から出ることなく、日本向けの仕事をこなすのだ。

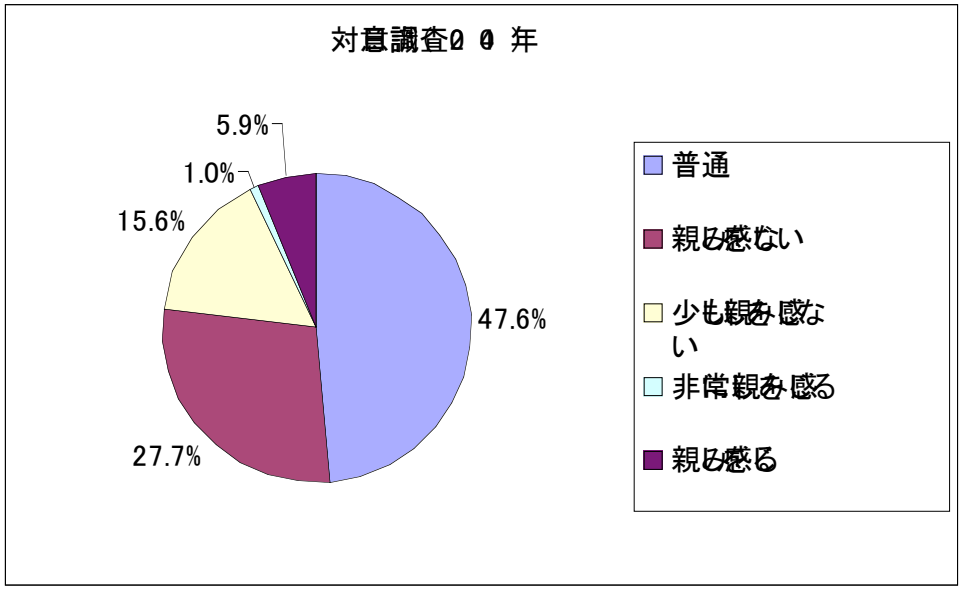
日本企業で働く中国人

大連ソフトウエアパーク内に支社を持つ日本企業の中国人社員の方ご協力いただき、アンケート調査を行った。この会社はシステムコンサルティングと開発を行う会社であり、エンジニアとそれをサポートする日本語スタッフが働いている。彼らは皆 4 年制大学を卒業し、日本語スタッフは皆日本語検定一級を持ち、20 代の若い社員ばかりだ。
「なぜ日本企業を選んだのか」との質問については、9 割が「自分のスキルアップのため」と答えている。中国の人材市場では、「職場経験」や「スキル」が重要視されるため、新卒はあまり歓迎されない傾向がある。そのため働く中で、自分の市場価値を高め、より給料の高い職場へと転職するが一般的だ。日本企業を選ぶというのは、給料や待遇のためというよりも、日本語、あるいは最新技術の習得をするためといっていいだろう。
日本が大連の本当のパートナーになるために
ここまで、大連が日本に侵略された歴史から、現在、日本企業が多数進出し、経済関係がますます強まっているということに触れ、大連と日本といかに縁の深い土地であるということを述べてきた。
日本企業は大連政府の優遇政策や、大連の人材の豊富さ、ソフトウエアパークなどの環境の良さを利用し、オフショア開発を行ったり、業務委託を行ったりすることで、コスト削減に成功し、ビジネスの発展に成功した。日本側から見たときは、大連は既に日本の「パートナー」である。もちろんオフショア開発とは、もともとコスト削減のために行うのであって、その目的は達成されているし、そのことによって、大連政府に外貨が入り、大連の経済が活性化したことは事実だ。
だが、第３章でも述べたように、中国が安い単価で仕事を請け負って、下流工程しかまかされていないような状態で、本当の「パートナー」と言うはできないように思う。中国人が直接日本に行って勉強する機会を増やしたり、例えばシステム開発においては中国人 SE が日本に行ってお客様に直接要望を聞いたり、そういった機会が増えていくと、中国側から見たときに、日本が「パートナー」となりうるように思えてならない。

おわりに

最近日本において本屋などでも、「嫌中」「反中」に関する本が目立ってきた。先に、比較的親日的といわれる大連でも反日感情がやはりあるということを触れたばかりだが、「中国の愛国主義教育」の結果だと、片付けてはいけない。

また、こんなデータもある。



（出典：「社会科学院日本研究所」を天児慧「中国・アジア・日本」より転載）

これは 2004 年末に社会科学院日本研究所が行った調査である。2002 年末に公表した調査結果は、「親近感を持たない」が 43.3%とはるかに多数を占めていた。2004 年末の調査でも確かに親しみを感じない、少しも親しみを感じないを合わせて４４％以上に上る。しかし、ここで注目したいのが「普通」という中立派がじつは最大数を占めていたことである。これと同じ質問を先に挙げた日本企業で働く中国人の方にしたところ６割が「親しみを感じる」残る 4 割は「普通」と答えてくれた。

昨今の対日感情は多様化してきている。まず、声を大きくしていいたいのが、ほとんどの中国人が「日本人」個人に対して反日をふりかざすことはないし、日本人を見たからといってすぐ攻め立てるような人もいない。むしろ個人的に見れば友好的に接してくれる。

隣国である日本と中国の、昨今のお互いを嫌い合うような風潮は決してよい傾向とはいえない。もっと個人レベルでの日中の相互理解が進むことを願う。第二章で触れたように、日本は統治時代大変傲慢な態度で中国人に接していた。「中国は日本に学び、日本は中国に学ぶ」お互いに対等な立場で学ぼうという姿勢が今の日中関係には必要だ。

参考文献

asahi.com 中国特集 11/15
<http://www.asahi.com/world/china/news/TKY200611150258.html>
天児慧『中国・アジア・日本』ちくま新書 2006
『ウェネバー大連』MEDIAMANBU
王敏『ほんとうは日本に憧れる中国人』PHP 新書 2005
何徳倫『大連は燃えている』エスシーシー　2005
石剛『植民地支配と日本語』三元社　1993

大連現代博物館 <http://www.modernmuseum.org/>
大連ジェトロ大連「大連市概況」2006 年 9 月
<http://www.jetro.go.jp/jetro/offices/overseas/cn_dalian/>
大連ソフトウエアパーク <http://www.dlsp.com.cn>
大連投資促進センター「大連投資案内」２００６ 大連市日本経済貿易事務所
<http://www.dl-jp.cn/guide.asp>
「china door」大連タウン情報 ＜http://chinadoor.jp/dalian/index.php＞
塚瀬進『満州国「民族協和の実像」』吉川弘文館 1998
塚瀬進『満洲の日本人』吉川弘文館 2004
天健ネット日本語版 ＜http://jp.runsky.com/js.asp#top＞
天報 Yesky「軟件外包之感：是給別人做嫁衣」2006-10-09
<http://soft.yesky.com/info/413/2606913.shtml>
西沢泰彦『図説 大連都市物語』河出書房新社 1999
日本貿易振興機構海外調査部「ASEAN・中国・インドの労働力環境比較調査」2006 年 9 月